

2007年7月22日(日曜日)



「福井新元気宣言」の実現に向けて 県民との「共動」で、暮らしの質向上を

2期目がスタートした西川県政。「福井新元気宣言」に掲げたビジョンの実現を目指す県の平成19年度6月補正予算が、先の6月定例県議会で決決、成立しました。

今回の予算では、これまでの成果をより確かなものとし、県民の生活の質をさらに高めるため、産業の活性化や交通対策、環境対策などの重要課題をはじめ、教育力の向上、福祉・保健医療の充実、安全安心の確保などに特に重点をおきました。

※補正予算とは

県の仕事は、毎年、予算という形で経費を見込み進めます。1年間の予算は2月～3月に開かれる県議会で諮り、決めます。これを年度の初めに定める予算ということで、「当初予算」と呼びます。

19年度の当初予算は、知事選挙等の関係で主に継続的な事業を中心とした、いわゆる骨格予算となっていたため、これに新たに政策的な経費を盛り込み肉付けを行うものが、今回の「6月補正予算」です。

平成19年度予算の規模

会計区分	当初	6月補正	計	対18年度当初予算額比(%)
一般会計	4,438億4,654万円	310億6,396万円	4,749億1,050万円	96.8
特別会計	194億6,336万円	53億5,158万円	248億1,494万円	126.8
企業会計	321億2,586万円	2,940万円	321億5,526万円	94.9
計	4,954億3,577万円	364億4,494万円	5,318億8,071万円	97.8

(千円以下は切り捨て)

予算編成・仕事の進め方の工夫

◇県民との「共動」

行政が地域住民、ボランティアなど県民と共に活動する「共動」という新しい行政運営スタイルを取り入れました。

◇市町との連携

市町との連携を一層密にしながら地域の課題を解決していきます。

◇ゼロ予算事業

職員の創意工夫により、特別の予算措置を伴わないゼロ予算事業を実施します。

◇部局連携

短期間で解決する必要がある課題を対象に、企画幹クラス以上をリーダーとして、部局横断で「課題解決プロジェクトチーム」を編成します。「ママ・ファースト運動」チームなど既に15のチームが活動しています。

◇独自統計・マーケティング調査の強化

地方が直面している課題について、地域の実情やニーズを政策立案に活かすため、独自の統計やマーケティング調査によるデータ分析を進めます。

健全財政の確保

県では、健全財政を維持しながら必要な事業を進めるため「行財政改革実行プラン(H18年3月)」に基づき、事務事業の見直し等を積極的に進めています。

基金残高は、現時点で計画目標を上回る248億円を確保しており、自主財源比率など財政指標についても、職員数の適正管理や事務事業の見直しによる歳出抑制、県債発行の抑制により、全て達成できる見通しです。

なお、地方交付税の減額など社会・経済情勢の変化に対応するため、今年度中にプランの見直しを行い、引き続き行財政改革を着実に実行していきます。

財政改革実行プランの推進状況

項目		行財政改革実行プランの目標	平成19年度6月現計
基金	残高	165億円	248億円
	取崩額	85億円	85億円
財政指標	自主財源比率	40%以上	44.3%
	経常収支比率	95%以下	94.0%
	起債依存度 (臨時財政対策債・豪雨災害対策債を除く)	10%以下	9.6%
	起債制限比率	15%以下	13.0%
プライマリーバランス (臨時財政対策債を除く)		黒字を維持	黒字

※プライマリーバランス = 借入金の償還金 - 借入金

元 気 な 社 会

未来を託す教育・親しみ楽しむ県民文化

●「ていねいな教育」と「きたえる教育」

福井の教育・文化の新たな振興方策について検討を進めるため、県内外の有識者による「教育・文化ふくい創造会議」を開催します。会議では、テーマ毎に2、3か月程度で検討・立案を行い、できるものから実行に移します。

また、分かりやすい授業で実績を上げている教員「授業名人」の公開授業の実施などにより、教員の指導力向上を図り、併せて、授業の進め方などについて研究・研修を行う「教員研修機構(仮称)」の開設に向けた準備を開始します。

さらに、小学校13校の5・6年生を対象に外国人講師による英語活動を毎週行うとともに、分かりやすい理科授業を進めるため、観察・実験を補助する理科支援員や特別講師を小学校約50校に配置します。



早い段階から生の英語に触れることで英語への興味、関心を高める

●いつでも身近に福井の文化

子どもたちが、福井の歴史や偉人など郷土文化を学び楽しむ拠点として、「福井子ども歴史文化館(仮称)」を開設するための準備を始めます。

また、白川静博士が確立された「白川文字学」を普及させるため、子どもから大人まで、漢字に親しみ、楽しく学べるよう、小学校向けの新たな漢字学習教材の配付や親子漢字講座の開催などを行います。

●県立大学を中心とした大学連携リーグ

大学全入時代を迎え、少子化が進む中、大学間の競争が激しくなっています。そこで、県立大学をはじめ県内8つの大学が連携し、人材育成や共同研究など交流を活発化させ、全体のレベルアップを図ります。

●「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援

今年の世界陸上競技選手権大阪大会に出場するギリシャ代表チームが、8月に本県で事前キャンプを行います。期間中、歓迎レセプションの開催や、世界レベルの技術に直接触れることができるよう、指導者・子どもたちへの実技指導を行う予定です。

女 性 活 躍 社 会

●女性の元気で女性活躍社会

日本一の働き者の福井の女性が、地域や職場などあらゆる分野で優れた能力を発揮できるよう、総合的な支援を行う「女性活躍支援センター」を8月に設置します。働く女性のキャリアアップや起業、再就職など様々な相談に応じるとともに、女性リーダー養成に向けた研修会を開催するなど、「女性活躍社会づくり」を進めます。



女性のキャリアアップや再就職を総合的に支援

●日本一の子育て応援システム

これまでの「ふくい3人っ子応援プロジェクト」等の取組みに加え、「ママ・ファースト」や「キッズ・デザイン」などの新しい視点を加えた子育て支援策を開始し、地域の方々とともに子育てに優しい地域づくりを進め、「子育ては福井で」を全国にさらにアピールします。

「ママ・ファースト運動」



子育てに優しい地域づくりをみんなの手で

病院やスーパー、公共交通機関等で妊婦や子ども連れの家族を優先する県民運動
「キッズ・デザイン」
明るく安全な通学路など、子どもや家族の視点に立った「子どものまち」づくりを進めるもの

イキイキ・長生き「健康長寿」

●がん予防・治療日本一

死因別の死者数が最も多い「がん」による死亡率を引き下げるため、高度な治療、診断、臨床研究の拠点となる「がん医療推進センター（仮称）」を県立病院に平成20年度中に開設することとし、年度内に基本構想を策定します。

また、特に罹患率が高くなる40歳代女性の乳がんと50歳代男性の大腸がんに重点をおき、検診受診率の向上、早期発見・治療を目指します。



がんは早期発見・早期治療が大切
(マンモグラフィ検査車)



元気な高齢者を増やすため健康づくりを応援

●「もっと健康長寿に」プログラム

本県の健康長寿をさらに伸ばすため、元気に暮らしている高齢者の「元気生活率」のアップを目指し、要介護者の身体能力を改善させるケアプランの作成やラジオ体操など地域での健康づくりを支援します。

また、メタボリックシンドロームの改善や、「笑い」を取り入れた健康づくりなど、心身両面から健康長寿を推進します。

※元気生活率…要介護認定を受けていない人の割合

●出産から介護まで安心医療

医師の偏在等の問題に対応するため、全国各地の大学医局や本県出身医師のもとに直接出向き、本県の病院での勤務を働きかける「医師確保アドバイザー」を配置します。

また、県立病院救命救急センターに医師を確保し、十分な医療体制を組めない病院等に医師を派遣する「地域医療支援ドクター確保」制度を平成20年度からスタートさせるための検討を始めます。

みんなの手によるあたたか福祉

●ヒューマンパワーのあたたか福祉

高齢者の方々がができる限り住み慣れた自宅や地域で安心した生活を送れるよう、介護が必要な方々への家庭訪問や見守り活動を地域住民と行政が共働で進めます。

また、ボランティアの活動を促進するため、「地域福祉コーディネーター」の育成を進めるとともに、情報発信の基地・集いの場となる「ボランティア・カフェ」を設置します。

●つながりと自立の応援プロジェクト

障害者の経済的自立を図るため、一般就労への移行等を支援するほか、車いす使用の方々が指定された区画に駐車できるよう、県内共通の利用証を発行します。さらに、お年寄りや子ども連れのための優先駐車スペース「ハートフルスペース（仮称）」の設置を進め、すべての人が気兼ねなく街に出て活動でき、県民みんながお互いを思いやる“こころのバリアフリー”を広げていきます。

日本一の安全・安心（治安回復から治安向上へ）

●「福井治安向上プラン」の実行

暮らしの中での安心感をさらに高めるため、今年度新たに策定した「福井治安向上プラン」に基づき、モデル地区で効果のあった「ロック(鍵かけ) & ライトアップ(一戸一灯) 作戦」を県下全域に拡大し、夜間犯罪や無施錠による犯罪被害の減少を図ります。

また、移動式の速度レーダーや簡易飲酒感知器による取締りの強化、県民から通報を受ける「危険運転ストップダイヤル」の設置など、飲酒運転の根絶やスロードライブの徹底など各種対策を着実に進めます。

元 気 な 産 業

地 域 を 支 え 世 界 に 広 が る 福 井 の 産 業

景気・雇用情勢が回復傾向にあり、全体として活力を取り戻しつつある本県産業ですが、一方で業種間による景況の違いがあり、最近になって企業倒産が増加傾向にあります。

そこで、本県経済が持続的に発展するために解決すべき課題について、経済分野の第一人者を交え議論を行い、新たな経済戦略を検討します。

● 次世代技術産業の育成

これまでの取組みから成果を上げつつある「先端マテリアル創成・加工技術」や「レーザー高度利用技術」の分野に重点をおき、企業のニーズの掘り起こしから技術開発、販路開拓まで一貫した支援を行い、世界レベルの企業の育成を進めます。



産学官の連携により
世界レベルの企業育成を進める
(工業技術センター)

● 地域の雇用とコミュニティを支える地場産業 (地域貢献産業)

新たに50億円規模の「地域産業活性化ファンド」を創設し、その運用益を活用し、繊維や眼鏡などの産地技術をはじめ、農林水産物、観光資源などを活かした商品開発や販路開拓を幅広く支援します。

● 雇用の質の向上

失業率は低く、有効求人倍率は高水準で推移している本県の雇用情勢ですが、本県産業の活力を維持していくためには、質の高い労働力を確保していくことが必要です。

そこで、都市圏での就職説明会の開催や県内企業でのインターンシップの拡充など県外へ進学した大学生等が福井へ戻りやすい環境づくりを進めるとともに、産学官が連携し、効果的で体系的な研修を行うなど、企業のニーズに対応した人材育成を進めます。

さらに、非正規職員の雇用実態を把握するため独自調査を実施し、雇用環境の質を表す指標を設定します。

● 商店街の再生

商店街がそれぞれの特色を活かし、人が集い、交わり、にぎわう街へと変わっていくよう、一店一品運動や空き店舗の活用、コミュニティビジネスの立ち上げ等を支援します。



6月に行われた「ちりとてちん」の県内ロケ

また、にぎわいのきっかけづくりを進めるため、商店街や公共施設での継続的なテント市の開催等を支援します。

● ブランド複合型の観光産業

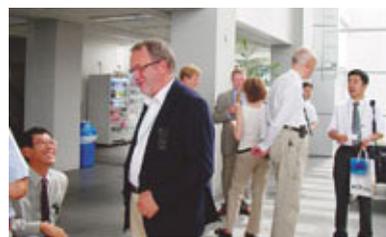
今年10月から放送されるNHKの連続テレビ小説「ちりとてちん」や「継体大王」の記念行事など、今年度の下半期は本県の魅力を全国に紹介する絶好の機会です。これら旬のテーマを組み込んだ旅行商品の開発など、旅行会社ともタイアップし、観光客の誘致拡大を進めます。

● 「エネルギー研究開発拠点化計画」の

ステージ・アップ

嶺南地域に原子力・エネルギーをはじめとする多様な研究開発を促

進するため、企業立地の助成制度を充実するとともに、若狭湾エネルギー研究センターがアジア諸国をはじめ、世界から優秀な研究者が集う拠点となるよう、国、電力事業者、地元経済界、大学等とともに取組みを進めます。



今月、若狭湾エネルギー研究センターで行われた「21世紀の共生型原子カシステムに関する国際会議」には、世界各国から多くの研修者等が参加

力強いプライドの農林水産業

● ソフト重視の企業的農業の推進

今年度から始まった「品目横断的経営安定対策」に対応するため、農地の集積を促進し、経営基盤の安定した企業的農業を推進します。

また、福井米の市場評価を高め、市場で勝てる米づくりを進めるため、コシヒカリの大粒化など高品質化を進めます。

● 若者から高齢者まで「みんなが後継者」の地域農業

農地の集積が困難な山間地や都市近郊地域での農業生産の維持・拡大を図るため、市町ごとにサポートプランを作成し、農作業を請け負うアグリサポーターの組織化を進めるほか、直売所と連携した小規模ビジネスの促進など、本県独自のサポート体制を構築します。

● フードビジネスの推進

県職員と流通事業者が一緒になり、都市圏において県産食材の特性に合った新たな販路を開拓するとともに、集客力の高い場所やイベントで出向宣伝を行い、売上増加を図ります。

● 元気な森づくり

平成21年春に開催される「第60回全国植樹祭」に向け、実行委員会の設置など推進体制を強化するとともに、会場周辺の山ぎわなどで不用木の除去や広葉樹等の植栽など、美しい森林景観づくりを行います。

また、県産材を幼稚園や保育園の積み木など学習教材に活用するなど、木を使う運動(木づかい運動)を県民運動として展開します。



木を育て、美しい森林景観づくりを進める



海釣り体験を行う子どもたち(小浜市の阿納漁港)

● がんばる海業

漁業者が経営する民宿のグループが行う、新しい名物料理の開発や漁業体験など観光の視点を取り入れた活動を支援するとともに、海釣り大会の開催等により、本県の家や川への誘客を進めます。

元 気 な 県 土

高速交通時代のにぎわい交流まちづくり

● 高速交通ネットワークの整備促進

北陸新幹線については、現在、福井駅部の平成20年度末の完

成に向け整備が着実に進んでいます。また、国においては与党のプロジェクトチームで新たなスキームの見直しに向けて検討が開始されるなど、正念場を迎えています。

そこで、県内延伸に向けた準備を着実に進めるため、県内への新幹線整備に伴う需要予測や経済波及効果等について調査分析を行うとともに、現在の北陸本線の利用実態等の基礎調査を進めます。

これらの調査を進め、県内延伸に向けた機運を醸成し、政府・与党をはじめ県内外へアピールするとともに、県内での受入体制整備を促進します。

● モビリティ・マネジメント

(交通手段の最適利用)の推進

県内の公共交通機関の利便性を高めるため、鉄道やバスの運行時刻、料金、乗継情報等が、携帯電話やパソコンで検索できるシステムを整備します。

また、過度な車の利用を見直し、公共交通機関や自転車などを利用する運動を行う「カー・セーブ戦略」を展開します。

● 社会資本整備の効率化と共動による維持管理

行政と民間が一体となり、「目に見える」形での息の長い活動の一つとして、地域住民や民間団体との共動により、河川の草刈りや道路歩道の清掃活動などを行う「川守」「道守」活動を推進し、潤いのある空間づくりを進めます。



県内延伸に向け、県民一丸となった取組みを！

元 気 な 県 政

夢 と 誇 り の ふ る さ と つ く り

● 「理想県」福井を全国に

県内外の企業に対して、健康長寿などふくいブランドを活かした商品開発や県産品の活用などの共動事業を働きかけ、企業が持つネットワークやPR力を通じて、本県の魅力を全国に発信していきます。

また、「ちりとてちん」や「継体大王」をテーマとした各種事業を関係自治体や民間団体と連携して実施します。

福井の魅力を語り広げる「考福学」については、誰もが福井を語れるよう、覚えやすい口上を作成するとともに、楽しみながら学べる「考福学検定」を実施し、さらに運動の輪を広げていきます。



継体大王ゆかりの地で様々なイベントが開催されている
(越前時代行列)

● 「ふくい帰住」政策

ふるさとの行政に関心を持ち、地域づくりを様々な形で応援していただくことは、地方の活力に大きな力になります。

そこで、こうした「ふるさと貢献」の考え方を広げていくため、県民や本県出身者が「ふくいの応援団」となり、ふるさとへ善意を寄せていただく「ふるさと貢献活動」を全国に向けて発信します。

また、この一環として、国債より低利に設定した住民参加型の公募債「ふくいふるさと債(仮称)」を発行し、金利差分を子育てや福祉などの県の事業に充てる取組みを県として初めて実施します。

● 「一人ひとりがエコライフ」

地球規模で環境問題が深刻化する中、温室効果ガス削減や自然環境の保護など様々な分野において、本県独自の環境政策の

検討・立案を行い、「自然環境」と「生活環境」で日本一を目指す、新しい環境計画を平成20年10月を目途に策定します。

●「ふくいランドスケープ構想」

ふるさとの美しい自然景観を守っていくため、公共広告（看板等）や山の切り崩しなどについて効果的な規制方策や美しい景観づくりに向けた誘導方策について検討を進めるとともに、市町のまちなみ景観形成に向けた活動を支援します。

また、福井駅前から足羽山にかけてオレンジ色の照明灯や施設のライトアップなど夜景を活かした散策コースを設定し、多くの人が夜も安心して楽しめるまちづくりを進めます。



ラムサール条約に登録された三方五湖
賢明な利用（ワイズユース）に向けた取り組みが始まっている



美しい風景は地域の宝（勝山市平泉寺）

詳しい内容は、県のホームページ「平成19年度6月補正予算」に掲載されています。

問合せ先／県財務企画課 TEL0776(20)0234

 **BACK**